

# 森林環境基金事業成果発表会 発表概要

日時 平成25年8月7日（水） 10時30分～14時30分

会場 福島県農業総合センター 多目的ホール

# 平成25年度森林環境基金事業成果発表会 発表プログラム

平成25年8月7日(水)  
福島県農業総合センター 多目的ホール

	時間	発表タイトル	発表者
1	10:35 ～10:55	「見る・聞く・さわる・つくる」を通じた森林環境学習	鮫川村立青生野小学校 教頭 吉川 武彦 教諭 佐々木 雄一郎
2	10:55 ～11:15	外部講師を活用した森林環境学習の実践	いわき市立湯本第三小学校 教諭 磯崎 晴美 教諭 男庭 幸恵
3	11:15 ～11:35	富田っ子の笑顔あふれる 里山環境再生	川俣町立富田小学校 校長 竹之下 道子
4	11:35 ～11:55	相双地域の森林環境交付金事業の実施状況 原子力発電所事故後の現状	相双農林事務所森林林業部 主査 福地 雅弘
	12:00 ～13:00	(昼休憩)	
5	13:00 ～13:20	<small>りきのうだましい</small> 力農魂でサギソウを守れ	福島県立岩瀬農業高等学校 サギソウ研究班 3年 青木 将人 3年 遠藤 樹
6	13:20 ～13:40	豊かな自然を次世代へ ～只見町における森林環境学習の実施～	只見町産業振興課農林班 主査 目黒 公俊
7	13:40 ～14:00	会津の地域特性を活かした基本枠の取り組みについて	会津農林事務所森林林業部 主査 渡辺 真紀夫
8	14:00 ～14:20	小野町における森林環境交付金事業の実施について	小野町農林振興課 主任主査 清野 昭雄

平成25年度福島県森林環境基金事業成果発表会

## 「見る・聞く・さわる・つくる」を通じた森林環境学習

発表：鮫川村立青生野小学校 教頭 吉川武彦 教諭 佐々木雄一郎

本校は今年で114歳の歴史ある学校です。阿武隈山地内海拔630mの高地に位置。近隣に朝日山、鹿野角平観光牧場、江竜田の滝などがあり、その景色は美しく、心が洗われます。全校児童数は13名。とても素直で仲がよく、森林環境学習にも、全児童で取り組んでいます。

昨年度は、森林の話を見聞きするのみならず、木材にふれる活動も多く取り入れました。

## 【活動の概要】（抜粋して紹介）

## 茶臼岳登山・那須甲子森林観察（宿泊学習）

講師：那須甲子少年自然の家・山の案内人

那須甲子少年自然の家へ1泊2日の宿泊学習の際、茶臼岳登山を企画した。所で紹介いただいた山の案内人の先生に、山は標高によって周囲の植物や樹木の種類が異なる話や、火山岩や地上から出る水蒸気の話等をいただき、子どもたちは大満足であった。



## 講話「森林と木の働き」及び木工教室

講師：県南農林事務所、森林組合より2名

前半は、県南農林事務所員の方から、原生林と人工林の違い、それぞれの森林の働きについて講話をいただいた。後半は、森林組合の方も加わり、建築端材をもとに、本棚や椅子、木工オブジェ制作に挑戦した。森林のためには木を使うことも大切だと分かった。



## 木工・テーブル加工・塗装体験教室

講師：地域の建築関係業者（保護者）2名

地元の大工さんでもある保護者夫妻を招いて実施した。ひのきのよさや役割について話をいただいた後、手触りや木の香りを体感。その後、塗装の仕方を指導いただき全員で塗装を行った。全校生が協力しながら楽しんで活動できた。



## 【成果と課題】

- 昨年度も活動に制限があったため、実際に森林に出かけて体感する活動は少なかったが、それでも茶臼岳登山や那須甲子の森林探索を通して、自然の豊かさを味わうことができた。
- 昨年度は、実際に木にさわる、木の香りを嗅ぐ、木で物をつくる、という木工活動に力を入れた。子どもたちは、小さな物から大きな物まで、身の回りには木材を使用した生活用品がたくさんあることに気付くとともに、木材の大切さを実感することができた。
- 可能な範囲で地元朝日山登山や村内の自然散策を計画しているが、事前に線量測定、現地踏査をするなど、児童や保護者が安心して活動できる環境づくりに気を配りたい。

## 「外部講師を活用した森林環境学習の実践」

いわき市立湯本第三小学校 教諭 磯崎晴美、男庭幸恵  
平成25年8月7日（水） 福島県農業総合センター

### 1 学校の概要

本校は、5年前から森林環境学習に取り組んでおり、学校の周りを囲む山林を活用したトレッキングコース「竜の道」での活動を中心に森に親しむ活動を展開してきた。震災後は、放射線の影響により「竜の道」での活動を自粛せざるを得ない状況にあるが、昨年からは、昆虫学習（3学年）や裏磐梯でのフィールドワーク（6学年）などを実施し、森林のよさや働きを実感できる活動を再開している。

### 2 森林環境学習の取り組み

#### （1）ねらい

森林環境に関わる様々な体験活動を通して、身近な自然環境に関心を持たせ、森林の恵みやそこに住む生き物の特徴に気づかせるとともに、自然や生き物を大切にしようとする心情を育てる。

#### （2）実践計画の立案にあたって

以前から学習支援をいただいている「森の案内人の会」の方々との連携を図り、活動内容や活動場所の選定についてアドバイスをいただく。

#### （3）実践の概要

##### 〈第3学年の実践〉

今年度の4月から、田村市ときわ振興公社（ムシムシランド）のご協力を得、カブトムシの飼育活動を行っている。150匹の幼虫が成虫になるまでを観察しながら、成育に適した環境や成虫になった後の習性・食べ物・飼育の仕方等を調べることができた。また、6月には「森の案内人」2名を講師に、ムシテックワールドの見学・体験活動を行った。講師の先生の説明を受けながら、グループごとに森遊びを行うことで、森林で活動する楽しさを味わうことができた。また、館内においては、昆虫の生態について係員の説明を聞きながら、詳しく調べることができた。

##### 〈第6学年の実践〉

昨年度の10月に、「森の案内人」3名を講師に、裏磐梯フィールドワークを実施した。3グループに分かれての五色沼遊歩道の散策では、ちょうど見頃を迎えた紅葉の美しさに感動しながら、樹木の名称や特徴、裏磐梯の歴史等、講師の先生の説明を受けることができた。また、小野川不動滝の見学も行い、ブナの木や雄大な滝の姿から、日常の学習では感じることはできない自然のすばらしさを体感することができた。

### 3 今までの実践を振り返って

理科の発展的な学習として森林環境学習を位置づけ、児童の興味・関心を生かした活動を設定することができた。また、外部講師の方々との連携を図り、本校の実態に応じた適切かつ専門的なアドバイスを受けることができた。

引き続き身近な自然にふれ、森林やそこに暮らす生き物について調べることを通して、自然や森林環境の大切さを体感させるとともに、それらを守ろうとする態度を育成していきたい。そのためには、学年ごとの学習内容の系統性について再度吟味・検討するとともに、本校の児童にとってより意味のある、効果的な体験活動を開発・改善していく必要がある。

発表の表題「富田っ子の笑顔あふれる 里山環境再生」

発表者の所属：川俣町立富田小学校

職名及び氏名：校長 竹之下道子

発表の概要

## 1 本校の概要

本校は、川俣町のほぼ中央に位置し、平成元年に鶴沢小学校と小神小学校が統合して誕生した創立25年目の学校です。児童は緑豊かな環境の中で、のびのびと学習しております。全校児童は107名、教職員12名、PTA会員88名であり、保護者の皆さんや地域の方々に支えられながら、教育活動の充実を図ってきたところです。

## 2 里山を活用した学習とその再生・整備

本校では、周辺の森林や河川など、さまざまな表情を見せる自然とふれあいながら、森の大切さや不思議さ、森に憩う動物たち、森の恵みなどを学習してきました。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災と東京電力福島原子力発電所の事故に伴う放射能汚染により、児童の屋外での活動が大幅に制限され、また、周辺森林においても、手入れが行われなくなって荒廃し、学習フィールドとして立ち入りにくくなってしまったことから、頭を痛めておりました。

こうした中、県の森林環境税を活用した事業により、里山の手入れができることがわかり、本校の父母と教師の会で協議検討した結果、この事業に取り組むことを決め、自分たちでできることをみんなで汗を流して取り組んだところです。

本日は、子供達のがのびのびと笑顔で学習活動ができるよう、関係者の皆様の多大なるご支援ご協力を得ながら、本校の父母と教師の会が里山の再生に取り組んだことについて報告します。



【森の案内人との森林環境学習（5年生）】

【プールで元気に泳ぐ富田っ子】



## 相双地域の森林環境交付金事業の実施状況 原子力発電所事故後の現状

発表者 相双農林事務所  
主査 福地 雅弘

### 1. 相双地方における森林環境交付金事業について

森林環境交付金は、市町村が独自性を活かして、森林づくりを進められるように交付され、森林の整備や調査、木材の利用促進、森林に対する意識の醸成と広く利用されるが、東日本大震災及びそれに伴う原発事故以降、相双地区においては、避難や活動の制限により、ほとんどが森林環境学習にあてられている。

### 2. 相双地域の小中学校の現状

東日本大震災及び原子力発電所事故により、相双地域の小中学校を取り巻く環境は激変した。

事故により、9校が休校、24校が他地域等への避難を余儀なくされ、また、地域に残った小中学校でも、住民の自主避難により、生徒数が減少する等大きな影響を被った。

小中学校の児童生徒数は、原発事故以前約17千人だったものが、現在は約8千人と、半分以下となっている。

### 3. 相双地域での森林環境学習

震災前、各学校で行われていた自然観察やシイタケ栽培等の森林体験学習の場として利用され慣れ親しんだ森林は、原発事故により拡散した放射性物質により汚染されてしまった。

事故後、活動は屋内や県内外のより低線量の森林体験フィールドで行われている。



写真1 屋内での木工教室（広野町）



写真2 会津地方で行った森林散策（大熊町）

テーマ「力農魂でサギソウを守れ」

福島県立岩瀬農業高等学校 サギソウ研究班

会津若松市内の湿地に自生しているサギソウは繁殖率が低く、乱獲などの被害によって絶滅の危機に瀕しています。そのサギソウをバイオテクノロジーの技術で守れないかという依頼を受け、私たちは研究を開始しました。

人工交配で得られた種子の無菌播種では、自然界の約50倍の発芽率を示しました。しかし、人為的な培養苗は遺伝子の攪乱に繋がる為、自生地に戻すことができないことがわかりました。そこで自生地の近くに土地を借り、培養したサギソウを植え付けた「見本園」を作成することにしました。これは多くの人にサギソウの生態や現状を知ってもらうためです。更に、地元でのサギソウ展や世界ラン展などで発表を行うことでサギソウの啓発活動を地元内外へ行うことができました。

現在も試行錯誤しながら見本園を作成しています。また、種子を自生地に直接播種する「自生地播種法」を行い、自生地にもサギソウの姿を戻していきたいと思い活動をしています。

豊かな自然を次世代へ

～只見町における森林環境学習の実施～

只見町産業振興課農林班 主査 目黒 公俊

只見町は南会津郡の西北部に位置し、ブナ林を代表とした自然豊かな町であり、「自然首都・只見」の宣言やエコパークの認定に向けた取組み等、自然環境や森林文化を生かした町づくりに取り組んでいる。

その動きの中で当町においては、森林環境交付金基本枠を活用して、町内の小中学校における森林環境学習の推進や里山の整備、ブナセンターを活用した森林を守り育てる意識や森林文化の啓発のなどを実施してきた。

特に、森林環境学習は平成18年度より実施しており、平成21年度からは町内の小中学校4校全てで実施している。内容としては、只見町の特徴でもあるブナ林を中心とした自然観察会や森林文化について理解を深めるための料理教室など、工夫を凝らした活動が行われている。

本日は、それらの取組みについて報告する。



ブナ林における自然観察会



表題：会津の地域特性を活かした基本枠の取り組みについて

所属：会津農林事務所

職氏名：主査 渡辺 真紀夫

概要：

会津農林事務所管内 13 市町村が平成 18 年度から平成 24 年度に実施した基本枠事業から、会津の地域特性を活かした取り組みを中心に紹介します。

- ・ウルシ、キリ、ツル細工といった森林文化の保護、承継、育成
- ・森林が無い自治体の取り組み
- ・ツキノワグマ被害対策
- ・教育委員会が主体として実施した森林環境学習 など



漆工芸教室



雪囲い製作

## 小野町における森林環境交付金事業の実施について

小野町農林振興課 主任主査 清野昭雄

### 【小野町の紹介】

小野町は、阿武隈山系の中部、田村郡の南部に位置し、町の中心を太平洋にそそぐ右支夏井川が流れ、これに沿って平地を形づくっています。

### 【県民参画の推進】

町主催のイベント「小町ふれあいフェスタ」開催時に間伐材を利用した親子木工教室及びチェーンソーアートの実演を実施しました。

### 【森林環境学習の推進】

町内4小学校、2中学校が森林環境学習を実施しました。総合学習の時間を利用して各学校の特色を活かした森林環境学習や地元出身の方を講師に迎え、自然観察などの活動を行いました。

### 【森林整備の推進】

森林の公的機能の保全及び将来的に住民参画の森林環境学習やレクリエーションの場として活用できるように町有林の間伐を実施しました。

### 【平成25年度森林環境交付金事業（重点枠）の紹介】

県産材の利活用推進として、町内にある緑とふれあいの森公園 森の体育館の改修を行います。

内容としては、床、手すりの改修工事及びデッキ固定式ベンチをテラスへ設置することにより利便性の向上を図ります。

木質バイオマスの利活用推進として、緑とふれあいの森 管理棟内の多目的ホールにペレットストーブ2台、小野町役場出納室窓口にペレットストーブ1台を設置します。

### 【今後の事業実施について】

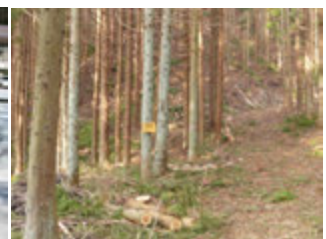
福島県から交付される森林環境交付金を有効に活用し、森林の機能や役割など広く学習の場を提供し、豊かな環境を子どもたちに引き継ぐため森林環境学習をはじめ様々な事業を今後も実施していきます。



県民参画の推進



森林環境学習の推進



森林整備の推進